



## サロン活動応援メッセージ

サロン活動を応援する「はんどちゃんネットワーク運動」の運営を行う「はんどちゃん運動推進委員会」のメンバーから、皆さんへのメッセージを掲載しました。

◆人と人との結びつきが稀薄になり、人に心を配ることが少ない社会は、とても生きにくい社会になってしまいます。サロン活動に取り組みされるみなさんの活動と想いが、さらに広がり賛同する人たちが増えていくことで地域社会は少しずつ変わり始めると思います。

そんな皆さんの応援者として、人と人が繋がることの大事さと楽しさを大切に応援をしていきます。

◆先日、水戸市にあるグループのサロン活動の見学に行ってきました。グループ員は女性が多数で、今年の干支である「寅」を紙粘土で作る作業をしており、私も参加しました。グループ員は明るく親切で活発な方々でした。ある人に「何年生まれですか？」と聞いたところ、「女性には年を聞かないものですよ。」と、たしなめられました。実に若い。実年齢は80歳と後で教えてもらいました。年齢を重ねると、一人であるよりは他人と一緒にいると元気になるものをつくづくと感じました。

サロン活動は非常に良い機会です。人は集まって話し合うことが大切です。頑張り皆さん！

◆日本は今、急激な人口減少が起きています。これからの日本は、若い世代が減って高齢者が増えていきます。また障がい者も増加傾向にあります。そして家族の人数も減り、1人暮らし世帯も増加しています。昔の日本は、お隣さん同士の支え合いや、近隣住民が自発的に助け合う姿が多く見られました。しかし今後は、サロン活動のような積極的な活動を広げ、地域生活を地域住民が意図的に守っていく仕組みが重要になります。皆様の活動は社会を救う活動です。ぜひ継続させてください。

◆新型コロナウイルスがくり返し流行する中、工夫しながらサロン活動を続けている皆さまに、改めて敬意を表します。従来からの地域課題にコロナ禍が加わり、「サロン」活動を取り巻く状況は大きく変化しました。「サロン」は利用する方も、支え手側（運営）の方も、皆が気軽に来られる居場所、楽しいから行く場所です。

はんどちゃんネットワーク運動の助成金や事例集を活用し、「サロン」の数や活動が「密」になることを願っております。

◆人と人をつなぐサロン。できることはまだまだありそうです。

スイーツとしても有名な「ハロハロ」はフィリピン・タガログ語で「ごちゃまぜ」の意味。いろんなものが入っていて、その分いろんな味や触感が楽しめるのが魅力です。サロンの魅力も同じではないでしょうか。

いろんな人と人、老若男女が世代を超えて出会い、つながり、支え合う。そんな場、そんな時は、もっともっと地域に必要です。子育ても、介護も、お悩み相談も、得意な事の披露も。皆さんのこれまでの成果を生かして、ハロハロ・サロンにチャレンジはどうでしょうか。でも「ごじゃっぺ・サロン」にはならないように注意してください。

◆コロナ禍という、これまで誰も経験したことのない状況・環境の中、人と人とのつながりを大事にするサロン活動を行うことは、悩みも苦労もたくさんあると思います。

そんな困難な状況を力に変えて、活動をされている（活動しようと準備をしている）皆さんはそれぞれの地域の大事な存在です。

どうか、無理はせず、でも楽しい活動ができますように。

◆サロン活動担い手の皆さんへ

コロナ感染拡大時は活動をオンラインで、縮小時はすぐに活動の現場に参加者を呼べる仕掛け作りを考えましょう。

①「押さば引け、引かば押せの柔の心でコロナに対決しよう」

②「粘り強く戦ってゆくための武器（スマホのLINEビデオ通話）を皆で習得しよう」

サロン参加者の交流を途絶えさせることなく、そして笑顔を忘れずに頑張ってください。

◆サロンに来て活動した皆さんが帰宅するときの笑顔は最高です。一緒に活動する仲間がいること、心を開いて話せる友達がいること、自分の力を尽くすことのできる人達がいることは、生きている感動や幸せを実感させてくれます。県内各地にユニークなサロン活動が拡大することを願っています。AIや科学技術が急速に進展する中で、人と人との絆で繋がった安心・安全な地域社会づくりに力を合わせて取り組みましょう。

◆コロナ禍では、どうしても巣ごもりになって出にくくなりがちです。

皆に会いたい、話し合を楽しみたいけど……。そんな、あなたをサロンの仲間も同じ気持ちで待っています。

「何かを学ぼう」「役に立てよう」「楽しもう」など考える必要はありません。人は「群れ」の中にいるだけで、多くのことが得られ、身につくとされています。

◆少子高齢化や社会的格差が深刻な問題とされて久しい中、苦しさを抱えて生きる方たちとの“ふれあい”“支えあい”に献身的に取り組まれてきた皆さま、新たに取り組もうとされている皆さまの姿に、本当に救われる思いです。長引くコロナ禍は活動を妨げる高い壁ですが、今こそ皆さまの温かさを必要とする方が大勢いらっしゃると思います。心を一つに知恵を出し合っていけば必ず乗り越えられると信じています。一緒に頑張っていきましょう。

◆こんなコロナ禍だからこそサロン開催！えっ！こんな時に行うの！様々な反応の中での知恵を絞っての開催、お疲れ様です。でも、知恵を絞り、考え、実行に移せる喜びも大ですよ！私もつくばみらい市で細やかに、もがきを楽しんでおります。ご一緒に宜しく願いいたしま～す！

◆コロナ禍にて想う・・・

人と人が触れ合うこと、これほど素敵でわくわくさせるイベント（？）が他にありますか。そんな感性を共有できるたくさんの仲間との「たまり場活動」。

3密が売り物（？）といえるほどの狭い空間での「たまり場楽校」プログラムの実践は楽しみながらの福祉のまちづくり活動です。迷いながらの自粛期間を経て今、たまり場仲間は無理のない自然体でのチャレンジをスタートさせつつあります。狭い空間は広い空間へ・・・公的施設をお借りして開催・・・3密を回避・・・人数制限の上での開催etcコロナ禍体験を無駄にせず次のアクションへの知恵を出し合います。

サロン活動は無数の可能性を秘めています。主役は人、暮らしびとです。集う人の感性、直感を信じて創り上げていく楽しさをぜひ体感なさってください！



## 出典・参考資料

- 全国社会福祉協議会（令和2年7月）  
『新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した地域住民等による福祉活動・ボランティア活動の進め方』
- 多摩市社会福祉協議会 『ふれあい・いきいきサロン活動の手引き』
- 蒲郡市・蒲郡市社会福祉協議会（平成29年12月）  
『サロンを立ち上げたい～設立・運営マニュアル～』
- 茨城県社会福祉協議会（令和3年7月） 『令和2年度 ふれあい・いきいきサロン実態調査報告書』
- 茨城県社会福祉協議会ほか（令和3年11月）  
『茨城県内社会福祉協議会事業概要及び職員設置状況調査データブック2021』